

報 告 書

文教厚生建設委員会は、令和5年7月11日（火）、大阪府和泉市において 住民主体の高齢者の外出支援「チョイサポシのだ」の取組みについて、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

記

和 泉 市	市制施行	昭和 31 年 9 月 1 日
	人 口	183,051 人
	世 帯 数	81,749 世帯
		(令和5年5月31日現在)
	面 積	84.98 k m ²

和泉市は、大阪府の泉北地域に位置し、大阪都心のベッドタウンとして開発が進み、かつては人口増加率で大阪府下1位を記録するなど、宅地造成が活発に行われた街である。

このことから、新しい道路や施設の整備、企業誘致や観光振興など、様々なサービス改善に力を入れており、2012年には、「ココロ トリコ イズミ」をキャッチフレーズに、都市環境と豊かな自然が調和した「トカイナカ」のシティプロモーションを行っている。

視察事項

【住民主体の高齢者の外出支援「チョイサポシのだ」の取組みについて】

1. 経過

- 平成28年度 高齢者サポートセンターを立ち上げる。
(庭の草刈、ゴミの搬出等ちょっとしたサポートをボランティアで行う。)
→移送サービスへのニーズが浮き彫りになる。
- 令和元年度 準備会で協議をはじめめる。
先進地視察、研修、住民アンケートを実施する。
- 令和2年2月2日 「チョイサポシのだ」の設立総会をする。
- 令和2年6月15日 送迎サービスを開始する。

3. 対象者（移送支援、生活支援含む）

登録者：高齢者、障がい者、子育て家庭等（年齢不問）。

登録料：当初 300 円/年間、令和 5 年 5 月 1,000 円/年間に値上げ。

登録者数：現在 391 人、待機者 90 人。

4. 利用

利用エリア：信太中学校区内。

利用料：10 分 100 円。（利用エリア内、10 分で移送可能。）

支払は現金のみ。

利用目的：問わない。

利用時間等：平日（月曜日から土曜日）、原則 9 時から 17 時まで。

利用予約：原則前日の 15 時まで。

同乗者の利用料：ヘルパーは不要。家族等付添人は別途必要。

5. 運用

- ・申し込みを電話で受け付ける。（5 人が「チョイサポシのだ」の携帯電話を持ち回り、家で受け付ける。）

- ・受付員は、予約表に記入し、夕方コーディネーター（2 人持ち回り）に紙で渡す。

- ・コーディネーターは、ドライバーのシフト希望表を確認しながらドライバーを割り振り、担当ドライバーに予約表をラインで連絡する。

- ・IT 担当者は、日々の業務記録をパソコンに入力し保存する。

6. ドライバー

- ・登録者は 16 人。多い日で 1 日 4～5 人稼働する。（多い日で 1 人当たり 20 人移送する。）

- ・平均年齢は 66 歳。（最年長 81 歳。最年少 35 歳。60～70 歳代中心。）

- ・事故時の補償は、個人の任意保険を利用する。（翌年度の保険料増額分の半分は「チョイサポシのだ」で負担する。）

7. 移送車

- ・ドライバーの自家用車（普通自動車 6 台、他軽自動車）。

- ・寄贈車（トヨタ プリウス）1 台。

- ・ガソリン代は、ドライバーが記入する運行記録の走行距離を基に 2 か月に 1 回「チョイサポシのだ」から支給する。

8. 報酬

- ・ドライバーへの報酬は市からの補助金交付額により変動する。1回の移送で250円から300円。月数千円から2万5千円程度。
- ・受付への報酬は1日950円。月4千円前後。
- ・コーディネーター、会計、IT担当者への報酬は月5千円。

9. 和泉市の補助金制度（移動支援サービス事業補助金）活用

- ・要支援1・2・それ相当の方を送迎した際、1回の往復で1,200円の補助金が交付される。（令和3年度より開始。）
→サポーターの報酬に充てる。
- ・補助金対象者の把握は、利用者からの申請に基づく。実績報告で市がチェックする。

10. 和泉市（行政）として

- ・市内4圏域に地域包括支援センターがあり、1名ずつ生活支援コーディネーターを配置する。
- ・地域の校区社協会長の要望に応じ、第1層協議体を開催する。
- ・地域の校区社協会長と生活支援コーディネーターが中心となり移動支援を検討する。
- ・近隣の校区社協会長や自治会長にも声かけし、中学校区での移動支援を検討する。

令和3年度 移動支援サービス事業補助金創設

令和4年度 移動支援交流会の実施

令和5年度 2団体立ち上げ予定

初年度の立ち上げ支援として、厚生労働省の「高齢者生きがい活動促進事業補助金」に市として100万円を上限に申し込み

11. 課題

ドライバー不足のため、必要とする人すべてに利用していただけていない。

12. まとめ

「チョイサポしのだ」の移動支援はタクシーやコミュニティバスを利用するほどでもない距離の移動手段として特化しているため、他の公共

交通機関・民間事業者と競合することがなく、地域住民のニーズに沿ったサービスとなっている。

また、その出発点が、地域住民のちょっとした困りごとを何とかしたいというボランティア精神からなっており、市の補助制度の有無や、利用目的に関係なく利用できることで、地域住民の利用のしやすさに繋がっている。

利用範囲についても、地域住民の属する中学校区内を基本とすることで、ドライバーの負担も軽減しており、無理なく長く続く秘訣が感じられる。

当市においても、今年度高野口地区の第2層協議体が行う高齢者移動支援に使用する車両を購入し、地域による運用を始めることになっているが、運用方法等参考にすることで、より市民にとって利用しやすい移動手段になると考える。

以上

なお、詳細については、議会事務局に資料を保管していますので、ご覧ください。